

【アルメニア文字翻字法】

アルメニア文字を多くの人(主に国際的な英語圏や一般的な読者)にとって発音しやすく、かつ一貫性のある表記にする(翻字・ローマ字化する)ための置き換えルールをまとめました。一つの「提案」です。

アルメニア語には「東アルメニア語(アルメニア本国など)」と「西アルメニア語(オスマン帝国領ルーツの移民コミュニティなど)」があり、同じ文字でも発音が異なるため、まずは現代のアルメニア共和国の標準である「東アルメニア語」の標準的なラテン文字表記(ISO 9985 や公式のパスポート表記に近い実用的なルール)をベースに解説します。

なお、発音によるアルメニアの東西の境界線は、第一次大戦までは現在のアルメニアとトルコの国境(アルパチャイ川・アラクス(アラス)川)辺りであり、現アルメニア本国は東で、現トルコ国内の Van や Sasun、Erzerum 等は西アルメニアでした。その後、西アルメニアのアルメニア人の多くは国を追われ亡命したので、今や、東=アルメニア本国、隣国ジョージア、イラン、ロシアなどに住む人々、西=主に欧米や中東の移民コミュニティ(レバノン、シリア、フランス、アメリカ・ロサンゼルスなど)、およびトルコのイスタンブールに残る少数のコミュニティと考えるとよろしいかと思います。

1. 母音(Vowels)

母音はローマ字(ローマ字読み)とほぼ同じなので、そのまま素直に置き換えます。

アルメニア文字	ローマ字表記	発音の目安・注意点
Ա ա	A/a	日本語の「ア」
Ե ե	E/e または Ye/ye	語頭では「イエ」、語中・語尾では「エ」
Է ե	E/e	常に「エ」
Ը ը	E/e または Y/y	英語の accurate の最初の音のような、曖昧な「ウ」や「ア」の間(schwa)
Ի ի	I/i	日本語の「イ」
Ո ո	O/o または Vo/vo	語頭では「ヴォ」、語中・語尾では「オ」
Օ օ	O/o	常に「オ」
Ու ու	U/u	2文字で1つの母音「ウ」を表します。そのまま u に置き換えます。
Վ վ	W/w	現在は上記の「ウ u」の表記の一部にのみ使われるが、古典アルメニアでは「w」を表していた。

2. 子音:日本語や英語に近く、そのまま読めるもの

多くの人にとって直感的に発音しやすいグループです。

アルメニア文字	ローマ字表記	発音の目安
Բ բ	B/b	バ行(b)
Գ գ	G/g	ガ行(g)
Դ դ	D/d	ダ行(d)
Զ զ	Z/z	ザ行(z)
Լ լ	L/l	L の音
Կ կ	K/k	カ行(k)。息を出さない K。
Ի ի	H/h	ハ行(h)
Մ մ	M/m	マ行(m)
Ե յ	Y/y	ヤ行(y)
Ն ն	N/n	ナ行(n)
Շ շ	Sh/sh	シャ行(sh)
Պ պ	P/p	パ行(p)
Ր ռ	R/r	巻き舌の R
Ս ս	S/s	サ行(s)
Վ վ	V/v	ヴァ行(v)
Տ տ	T/t	タ行(t)
Ր ռ	R/r	弱い R(通常のら行に一番近い)
Փ փ	Ph/ph	息を強く出す P。一般向けには p で十分通じます。
Զ զ	Kh/kh	息を強く出す K。一般向けには k で十分通じます。
Ֆ ֆ	F/f	ファ行(f)

3. 子音:工夫が必要な「特殊な音」の置き換え

アルメニア語には、英語や日本語にない「ツ」「チ」「ジャ」系の複雑な区別(有気音・無気音・放音)があります。多くの人にそれらしく発音してもらうための、最も実用的な割り当てです。

アルメニア文字	ローマ字表記	発音の目安と選択のポイント
Թ թ	Th/th	息を強く出す T。一般向けなら t、区別したいなら th
Ժ ժ	Zh/zh	フランス語の jou(ジュ)の音。英語圏の人には zh が最も伝わります。
Խ ք	Kh/kh	ドイツ語の bach やロシア語の x(喉を鳴らすハ)。kh が国際標準です。
Շ շ	Ts/ts	日本語の「ツ」の音。
Ջ ձ	Dz/dz	日本語の「ヅ/ズ」に近い音(dz)。
Շ շ	Ch/ch	日本語の「チ」に近い音(ch)。
Չ չ	Ch/ch	息を強く出す「チ」。上記の「Շ」と区別がつかなくなりますが、一般の人が読みやすいようにどちらも ch に統一す

		るのが実用的です。
Ջ ղ	J/j	日本語の「ジャ(j)」の音。
Ց ց	Ts/ts	息を強く出す「ツ」。上記の「Ծ」と区別して tsh とすることもあります。一般向けには ts で十分です。
ղ ղ	Gh/gh	フランス語の R のような、喉の奥を鳴らす音。国際的には gh と綴られます。

・「Է」と「ն」の扱い

語頭(単語の最初)に来る場合は、発音通り Ye(例:Երևան=Yerevan)、Vo(例:Վոկի=Voski)と綴るのが親切です。

語中の場合は、単に e , o とします。

・「նԼ」は必ず「u」にする

アルメニア文字では o と u の 2 文字を組み合わせで「ウ(nԼ)」と書きます。これをそのままローマ字にしまうと ou となり、英語圏の人が「アウ」や「オウ」と誤読する原因になります。必ず u 一文字に置き換えてください。Tom Bozighian 氏は、「oo」と綴っています。

・記号(アポストロフィなど)は使わない

言語学的な正式な翻字(ISO など)では、息の強さを表すために t' や k' のような記号を使いますが、一般の人はこれをどう発音していいかわからず、視覚的にも読みづらくなります。記号は一切排除し、アルファベットのみで構成するのが「発音しやすさ」の最大の秘訣です。

4. 西アルメニアの発音に基く翻字(東との差)

西アルメニア語の発音をベースにする場合、東アルメニア語との最大の違いは「子音の音が入れ替わる(有声・無声・有気・無気)」点にあります。東アルメニア語で「B・G・D」と発音する文字が、西アルメニア語では「P・K・T」になり、逆に「K・P・T」と書く文字が「G・B・D」になるという、鏡のような逆転現象が起きます。

多くの人に発音しやすいローマ字にするために、東アルメニア語から「置き換えを変更すべき文字」だけを抜き出しました。

(1) 「B・G・D」から「P・K・T」へひっくり返るグループ

東アルメニア語では濁音(有声音)ですが、西アルメニア語では清音(無声音)になります。ここが一番の大きな違いです。

アルメニア文字	東(本国)のローマ字	西(移民など)のローマ字	違いの具体例
Բ բ	B	P	人名「Bagrat」→ 西では「Pagrat」
Գ գ	G	K	人名「Gevorg」→ 西では「Kevork」
Դ դ	D	T	単語「Dram」→ 西では「Tram」
Ձ ձ	Dz	Ts	音が「ザ・ダ」系から「ツ」系に変わります。

Ջ ղ	J	Ch	人名「Jon」→ 西では「Chon」のように「チ」系に。
-----	---	----	------------------------------

(2) 「K・P・T」から「G・B・D」へひっくり返るグループ

上記の逆で、東アルメニア語では清音(無声音)ですが、西アルメニア語では濁音(有声音)になります。

アルメニア文字	東(本国)のローマ字	西(移民など)のローマ字	違いの具体例
Կ կ	K	G	人名「Krikor」→ 西では「Grigor」
Պ պ	P	B	人名「Petros」→ 西では「Bedros」
Տ տ	T	D	人名「Tigran」→ 西では「Digran」
Ծ ծ	Ts	Dz	音が「ツ」系から「ズ・ダ」系に変わります。
Ճ ճ	Ch	J	音が「チ」系から「ジャ」系に変わります。

(3) 母音「Է」の語頭での発音の違い

東アルメニア語では、単語の最初に「Է」が来ると「イエ(Ye)」と発音しますが、西アルメニア語では単に「エ(E)」と発音される傾向が強いです(※一部例外あり)。

東アルメニア語: Երևան = Yerevan(エレバン)

西アルメニア語: Երևան = Erevan(エレヴァン)

西アルメニア語ルーツの人々(主に欧米のレバノン系、シリア系、トルコ系のアルメニア人コミュニティ)に馴染み深い綴りにしたい場合は、上記のように「B⇔P」「G⇔K」「D⇔T」を入れ替えるルールを適用してください。

著名な例を挙げると、アルメニアの代表的な姓である「Sargsyan(サルグシャン)」は、東では Sargsyan(g を使う)ですが、西では Sarkissian(k を使う)と綴られます。

【雑感】

東と西で同じ文字でこうも発音が違うのも面白いですが、さて、例えば西アルメニアの踊り名や地名をどう発音するのが「正しい」のでしょうか？西アルメニアの踊りを、東アルメニアの人が発音すると普通は東風になると思いますが、本来の現地風の発音を重視すると、西風に発音するのが「正しい」とも言えます。でも、大阪人は、大阪のマクドナルドも東京のマクドナルドも、「マクド」と呼ぶでしょうし、東京人は両方とも「マック」でしょう。店の側から言っても、東京のマクドナルドは、東京人から「マック」、東京に来た大阪人から「マクド」と2通りで呼ばれ、大阪のマクドナルドも2通りの呼ばれ方をするのでしょう。さて、そんななか、大阪のマクドナルドは「正しくはマクドであり、マックと呼ぶのは間違い」だと主張しているような、頭の中が混乱しそうな妙な状況になりそうですね。アメリカ等のアルメニア人社会が、西風の発音が多い状況はまだ分かり易いですが、今のアルメニアに住むであろう、西の出身者はどう発音するのだろ

う？とか、西アルメニア由来の踊りが本国でも多く踊られているが、それらは生粋の東の人にどう呼ばれているのだろう？とか。どうしてもよいかもですが、気になりますよね。

本資料の目的は、アルメニア文字がなかなか読みにくいので、我々に発音しやすい文字で表したいということで、発音に基づき書き換え文字を選ぶというものです。同じつづりでも、東西で発音が違うと、翻字された綴りが変わってしまうという宿命です。

Garmir Fsdan なのか Karmir Fstan なのか
Bert Par なのか Bert Bar なのか
Daldala なのか Taltala なのか。。。。